

松田屋 茶ふらぬ虎之巻
 八束徳や狸もいも腹鼓神樂獅子ふ
 透りて夜毎の陣ある太鼓の音も
 或は近く又遠く其面白き出され
 いかうと此所彼所を行疲れ
 家へ帰り前後忘れ打目いなるふ
 夢に泣く言ふ日覺て見れ
 夢に我れ家へあつて露なるふ
 夢に下野の廣野原の臂と枕の高
 夢に我れるの夢をれ 後悔をせ
 夢に我れるの夢をれ 後悔をせ
 夢に我れるの夢をれ 後悔をせ

松田屋 茶ふらぬ虎之巻
 八束徳や狸もいも腹鼓神樂獅子ふ
 透りて夜毎の陣ある太鼓の音も
 或は近く又遠く其面白き出され
 いかうと此所彼所を行疲れ
 家へ帰り前後忘れ打目いなるふ
 夢に泣く言ふ日覺て見れ
 夢に我れ家へあつて露なるふ
 夢に下野の廣野原の臂と枕の高
 夢に我れるの夢をれ 後悔をせ
 夢に我れるの夢をれ 後悔をせ
 夢に我れるの夢をれ 後悔をせ



夢に我れるの夢をれ 後悔をせ
 夢に我れるの夢をれ 後悔をせ
 夢に我れるの夢をれ 後悔をせ

夢に我れるの夢をれ 後悔をせ

希世多國輝中



子 五
母 茶うぬ虎之巻

うぬむのやみとまきらのやう
 つゆからせうまじきものびあふ
 ねるくむひんくろうねの
 まんさいとさうや
 あかから
 へいせいでい
 したうらうた
 たぬのおるれあろもをえ
 してもあよひあまむふ
 りんくうかこひいたまじ
 もあろふ



越嘉
 國園
 駒政彫多七

藤木屋 茶うぬ虎之巻

越後守かきまきくおん
 る財の富子づき志一成
 うあつてのりくまうくわてち
 ちめいあ入とあ

越一れいよでかんく
 へいあ一がみ阿しあ
 まんたにまよとんで
 まんたにまよとんで
 へいあ一がみ阿しあ



越嘉
 國園

我々の心もあつて一筆の
 書きたるもあつていふ
 事かつかつてあつての心風
 なるをいふもあつていふ
 事かつかつてあつていふ
 事かつかつてあつていふ
 事かつかつてあつていふ
 事かつかつてあつていふ
 事かつかつてあつていふ

本重屋
 茶うゑ虎之巻



うそいふまじいのふたせになまけれ
 ぬまじいたまひまじいせまじい
 者とあれはけうあまひまじい
 なまじいまじいせまじい
 のちをあんせり

茶うゑ虎之巻

梅のつぼみもあつていふ
 事かつかつてあつていふ
 事かつかつてあつていふ
 事かつかつてあつていふ
 事かつかつてあつていふ
 事かつかつてあつていふ
 事かつかつてあつていふ
 事かつかつてあつていふ



四
 駒紋勝多七
 酒周島
 金嘉

海屋茶ふう多虎之巻

松入からんたきぎきん外
 や来月の名取入まきまあ
 うー堂へ越ゆるまき方ふ
 のましくも何れんもたれんあ

花ハ吉野ふお茶ハまき
 ふまきやふんぬくおのり
 ちとまきとまきふくまき
 子れ何れんもしくも何れ
 へんしくも何れんも

茶ふう多虎之巻

玉川のあゆみらせゆたのた
 はのせせれを何おた
 ちぬこののまきみ
 をひたすまきみ
 ちよふんくまきまき
 ちよふんくまきまき
 こまきまきあれてまき
 なるあゆみだまきあみ
 ちよふんくまきまき



朝倉彫長
 越嘉

朝倉彫長

越嘉